

氏 名：米田 昭子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 208 号

学位授与年月日：2021 年 9 月 21 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 林 直子（聖路加国際大学教授）

副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学教授）

副査 能登 洋（聖路加国際病院内分泌代謝科部長）

論文題目：2 型糖尿病治療の中断の時期を有する人を対象とした「糖尿病とゆるやかにつき合っていく」ことを助けるケアプログラムの開発

博士論文審査結果

本研究は、糖尿病治療中断の時期を有する 2 型糖尿病の人への“糖尿病とゆるやかにつき合っていく”ことを助けるケアプログラムによる介入効果について well being の観点から検討することを目的とした。研究方法は、糖尿病治療中断時期が 6 ヶ月以上ある男性 12 名に対して、「受診をしていなかった時期への着目」「自分の糖尿病・高血糖の身体への理解」「自己管理の病いという捉え方の緩和」「病いとのつき合い方の再考」の 4 つの要素からなる 7 つのケアプログラムを実施した。primary outcome は糖尿病患者セルフケア能力尺度(IDSCA)の 5 要素とし、secondary outcome として心身の安定と重症化の回避を設定し、ケアプログラムを完了した 10 名について介入前後(ベースライン、ケア 3 終了後、ケア 6 終了後、ケア 7 終了後)で比較した。その結果、primary outcome は介入前後(ケア 7 終了後)で有意差が認められなかったが、ケア 3 終了後およびケア 6 終了後において有意な得点の変化がみられた。本研究結果全体の考察から、本ケアプログラムの臨床での適用可能性が示唆された。

審査で指摘された主な点は以下のとおりである。

1. primary outcome について: primary outcome を IDSCA の 5 要素としているが、そのうちの「自分らしく自己管理する力」ではないのか、また、primary outcome のどの時点の差で効果を判定するのか。IDSCA のうち介入前後で測定した 5 要素を選択した理由を記載すること。「糖尿病とゆるやかにつき合っていく」を捉える尺度として IDSCA は適切であったか、他に代替案があれば記載すること。
2. 分析方法:研究目的の観点から、ベースラインとケア 3 終了後、ケア 6 終了後、ケア

- 7 終了後の 3 時点の検定でよいのではないか。
3. 結果:中央値、平均値が混在している。中央値で検定し図表を一貫して示すこと。また、検定を行った値については P 値も記載する。臨床的に意味ある得点の上昇はどのくらいであるのか、先行研究から客観的に述べること。また、脱落理由について記載する。
 4. 考察:介入前後で有意差が認められなかったことについて、またケア 7 終了後では得点下がったことについてどのような原因が考えられるか記載すること。ケアプログラムの目的、目標の達成状況について、患者だけでなく医師や看護師など周囲のスタッフの影響について、本プログラムの産業保健や地域保健での活用方法について考察すること。
- 以上のコメントすべてに回答がなされ、加筆・修正について審査員全員で確認した。

本研究は、2 回の予備研究を段階的に行い、2 型糖尿病患者に対する従来の一方向的な受診勧奨や知識教育、動機づけ支援ではなく、患者が無理をしない自己管理の仕方で穏やかで安定した状態で糖尿病と「ゆるやかに付き合っていける」セルフケアの必要性を明らかにし、そのためのケアプログラムを開発した。これは、糖尿病患者のケアに関する新たな方向性を示すものであり、この分野における意義は大きい。また、コロナ編において対象者のリクルートに苦戦しながら、辛抱強く研究を遂行し、研究目的から結果、考察までの一貫した記述がなされ、高く評価できる。

過去 3 年間の研究業績は、筆頭の論文が 3 件、国内の学会発表が 3 件であり、フルタイムの教員として勤務しながら、自立した研究者として研鑽を積み、その継続が期待できる。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。